

公園内で見られる植物

写真は10月19日(土)
自然観察会で見られた
植物です



センブリ (リンドウ科)

昔から健胃薬として利用された。非常に苦く、千回振りだしてもまだ苦いことからつけられた。



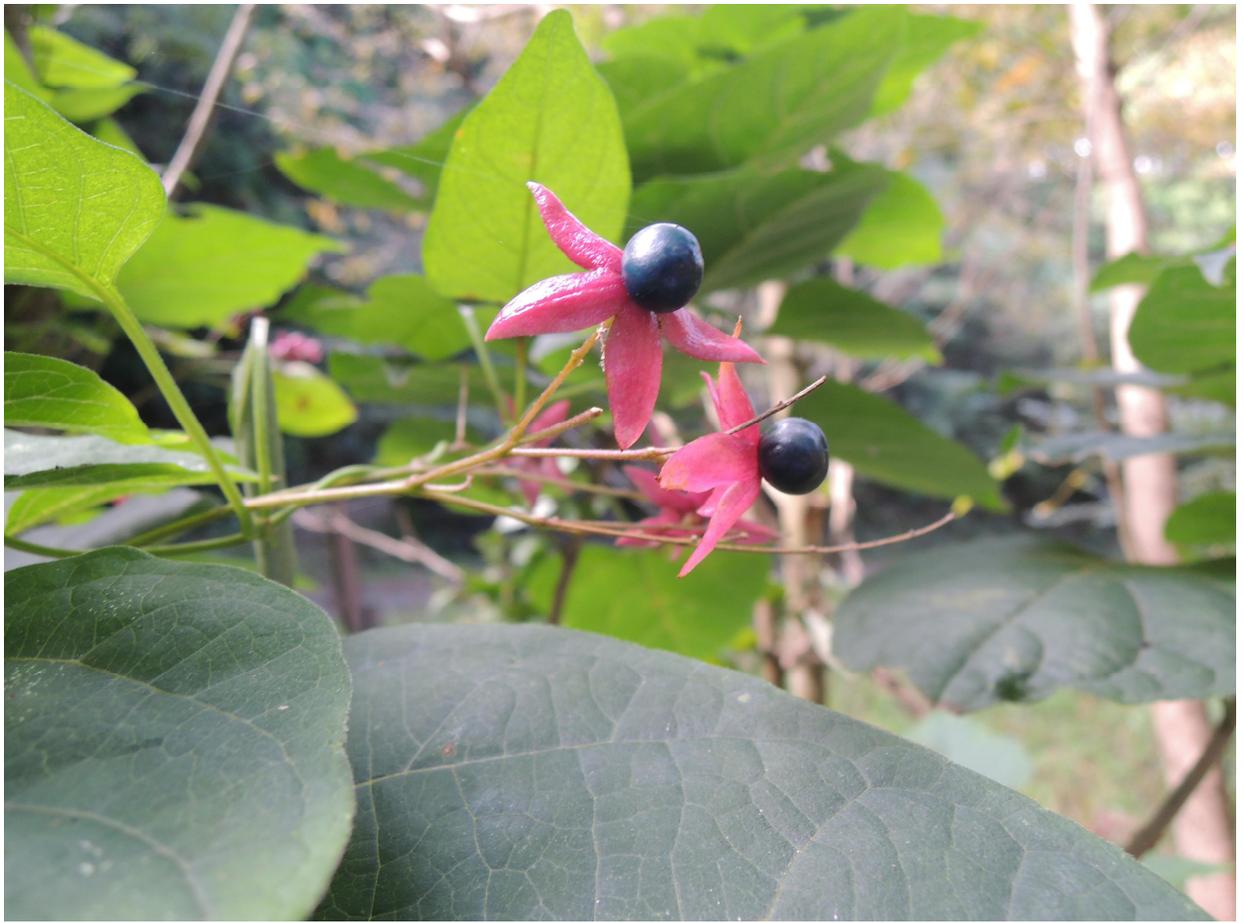
コウヤボウキ (キク科)

高野山で、枝をほうきの材料にしたことからついた。



オケラ (キク科)

若芽は食用になる。地下茎は芳香があり、健胃剤に用いるほか、正月の屠蘇にも使われる。



クサギ (クマツヅラ科)

真紅の萼と藍色の果実が美しい。枝や葉をちぎると強い臭気があることから名がつけられた。



アキチョウジ (シソ科)

和名は秋に丁字形の花をつけることによる。



ツルリンドウ（リンドウ科）

長さ 40～80 ㌢になるつる性の多年草。つるは紫色を帯びる。



ミゾソバ（タデ科）

別名ウシノヒタイ。別名は葉の形が牛の顔（額）を思わせることによる。



ハイイヌガヤ (イヌガヤ科)

種子は開花した翌年の秋に熟す。外種皮はやわらかくて甘みがあり、食べられる。



クズ (マメ科)

秋の七草の一つ。根を乾燥したものを風邪薬の葛根湯に用いる。



カマツカ（バラ科）

名前の由来／材が丈夫で折れにくく、鎌の柄などに用いられたため。



ツルグミ（グミ科）

花／10～11月、葉腋に淡褐色の花が数個垂れ下がってつく。